

第 23 回長野広域連合ごみ処理施設整備計画等専門委員会議事（概要）

日 時	平成 28 年 6 月 30 日（木）13：30～17：00		
会 場	ステーションコンファレンス東京 503-A		
出席者	専門委員		7 名
	長野広域連合		7 名
	(一財) 日本環境衛生センター		1 名
	八千代エンジニアリング（株）		4 名

協議事項

（１）第 22 回委員会議事録の承認について

指摘事項を修正し了承された。

（２）最終処分場について

①施設配置計画の見直しについて

<委員意見等>

- ・住民との合意形成においてグリーンベルトは重要なのできちんと設計する必要がある。
- ・処分場の建設にあたり、東側法面の管理を広域連合が行うことは住民に対し大きなメリットとなる。
- ・地権者との交渉後に条件の方向性が決まれば、コストダウンも含め検討を行う。

②埋立計画について

<委員意見等>

- ・処分場予定地と下流の河川の間では地質が異なり、水質も変わってくる。処分場が原因ではないことを理解していただくため建設前に住民へ説明した方が良い。
- ・現状では透水性のコントロールが難しくなるため、具体的に管理や洗い出し方法の埋立計画を考慮してから維持管理や運営方法を検討する必要がある。

③浸出水処理施設規模について

<委員意見等>

- ・施設規模を算定する際、単年ごとではなく、前年度の残留分もあるため、連続して行った方が良い。また、施設の稼働率や区画埋立についても検討した方が良い。
- ・交付金算定の際は、都道府県によって見解が異なるため、きちんと確認しておく必要がある。
- ・調整池に貯まる水が嫌気性になる可能性があるため、バッファ等の対策が必要である。

④今後のスケジュールについて

- ・用地交渉は 8 月ぐらいを目処に開始する予定である。